

子どもにお金の概念を持たせ、不必要なものを買わないよう、小さい頃から金銭教育をすることが重要と言われている。不動産投資コンサルタントで、「こどもmirai」(名古屋市中区)代表理事の村田幸紀さんに、毎月の小遣いを通じた金銭教育の方法を教えてください。



こどもmirai 村田幸紀さん

金融広報中央委員会(東京都中央区)による「子どものくらしとお金に関する調査」(2015年度)によると、1カ月の小遣い平均額は小学生低学年が1004円、中学生が2536円、高校生は5114円だった。小遣いには、一定期間に決まった額を渡す「定額制」、手伝いの対価として支払う「報酬制」、必要に応じて渡す「都度払い」の方法がある。経済的事情などで小遣いを渡さない家庭もある。村田さんは「定額制は計画性が身に付くが、全て使い切る癖が付きやすい。報酬制は稼ぎ方を学べるが、お金がもらえないと動かないなど、一長一短があります」と指摘。村田さんが勧めるのが、これらの方法を組み合わせるやり方だ。

定額制? 報酬制? それとも...

お小遣いで学ぶ金銭感覚

まず月額定額制を基にした「倍返し」法。前月の残金をいったん預かり、その額の2倍を「ご褒美」として渡すやり方。例えば、毎月千円の小遣いの場合、1カ月間全く使わなければ、翌月は残金の2倍の2千円が上乘せされ、計3千円がもらえる。「倍返し」が習慣化できれば、家事手伝いなどをした場合に、50

100円渡す報酬制「ありがたい返し」も行う。この二つの方法で、小学校低学年から、お金の「入り」と「出」を自分で管理させる方法を身に付けさせるとよい。「自由に使える裁量を子どもに与えることが大事で、子どもが何に使っても、それに対する価値判断や賛否は言いません。大切なことは全て使わず、我慢させること

■ 使い切らない ■ 前払いは厳禁

です」

小遣いによる違い

	メリット	デメリット
定額制	計画性が身に付き、お金の使い方を学べる	全て使い切る癖が付きやすい
報酬制	お金の稼ぎ方やありがたみを学べる	お金がもらえないと動かない
都度払い	お金に縛られない発想や交渉力が身に付く	お金を管理する感覚が育たない
なし	根性、気力が身に付く	自己肯定感が低くなりがち

(村田幸紀さんの取材を基に作成)

一方、前払いは絶対しない。「大人になってから、消費者金融からのキャッシング(借金)、ボーナス・分割払いに抵抗がなくなりました。泣きわめかれても、我慢を教えるチャンスと捉えて拒みましよう」。1カ月間我慢できない場合は総額を変えずに期間を短くしたり、少しでもお金を残すように教えたりして、成功体験を積み重ねることが大切という。

「お小遣いは、初めてお金に触れる大事な機会。習慣は一生続くと考え、お金に振り回されない子どもに育てましよう」と村田さんは話している。

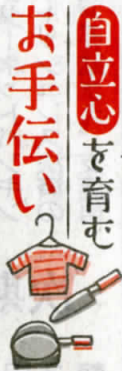
てきました。

子ども一人一人に個性があるので、必ずしもうまくいくとは言いきれませんが、少しでも皆さんのヒントにつながればと、私の経験をお伝えしていこうと思います。

命令せず「勇気づけ」

した経験はあります。しかし、要素があると感じます。

この質問に対する明確な答えにはたどり着いていません。しかし、果たして親が命令し、そもそもこの質問自体に



自立心を育て

お手伝い

子どもにお手伝いをさせ

るにはどうしたらいいですか